

贈呈目録の刊行に寄せて

東京女子大学図書館長 室 伏 信 助

大学図書館の使命の一つに、貴重な図書の保存と活用がありました。しかし、誰から見ても貴重な図書は容易には得られません。偶然の恵みがそれに相応しい器に盛られるとしたら、その欲びを誠意と責任とで果たす義務が生じます。丸山眞男文庫の受贈は、この稀に見る恵みであり、その欲びを保存と活用に向けて表明する第一歩として、正確にして詳細な目録の作成が不可欠となります。

しかし、この膨大な図書は、当初の計画ではその整理に数年以上を要すると予想されました。それがこのたび約二年で完了したことは、第一にこの大いなる恵みに応えるべく果たした大学側の丸山家に対する信義が的確な予算措置として講じられたこと、そしてこれを承けて直接この作業を担当した館員の非常な熱意も見逃すわけにはいきません。すべてこれ貴重な図書の保存と活用に対する大学人としての自覚であり、それこそが寄贈された丸山家に対する心からの謝意の表明に外ならない所以でもあります。

さて、この目録は、一九九九年三月から二〇〇一年二月十四日までの間に、丸山家から御寄贈いただいた図書や雑誌の明細をまとめたものです。なお、これ以降にいただいた分については、後日改めて補遺版としてまとめる予定です。この目録に記載された図書や雑誌のすべては、我が国の「学術情報システム」に準拠した詳細な目録情報がコンピュータ内部に構築済みです。したがって図書館内のコンピュータからはもとより、インターネット上では世界中のコンピュータから、自在に検索できます。

またこれとは別に、詳細な目録情報をまとめた冊子目録『丸山眞男文庫所蔵目録』（仮称）も作成し、国内外の広範な研究者に資することを目指しています。すでに刊行のための作業を開始しており、二年後には刊行できる見込みであります。総頁数はこの贈呈目録の二〜三倍に相当する大冊となります。

丸山家からご寄贈いただいた資料としては、上記のような蔵書類の

ほかに手稿・ノート類があります。これらについては、丸山眞男文庫協力の会の方々が調査と整理にご尽力いただいておりますが、整理完了まであと二〜三年を要する状況にあります。したがって今回はそれをご報告できませんが、整理が完了次第、改めて明細をまとめてご報告いたす所存です。

以上、刊行に至る経過の大略を記し、また今後の展望を若干書き添えました。この貴重な蔵書を寄贈された丸山家に改めて感謝の念を捧げる次第です。

二〇〇一年三月

〔『丸山眞男文庫寄贈図書資料目録』、二〇〇一年所収〕